

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0971200365		
法人名	社会福祉法人京福会		
事業所名	グループホーム安暮里		
所在地	栃木県那須塩原市鍋掛1416-3 (電話) 0287-73-2880		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年1月13日	評価確定日	平成22年2月9日

【情報提供票より】(平成21年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7人 7人	常勤7人(兼務1人), 常勤換算7人 常勤6人(兼務1人), 非常勤1人, 常勤換算6.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,000 円	その他の経費(月額)	・光熱水費-15,000円 ・共益費-10,000円 ・おむつ代-15円~150円/1個	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(平成21年12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	4 名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低	72 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団京愛会黒磯病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、周囲を田畑や林に囲まれる自然豊かな環境にあり、四季折々の情景を楽しむ場所に立地している。敷地内には同法人のデイサービスやショートステイ等の事業所が隣接しており、看護師の定期訪問や災害時の連携等、ホームとの協力体制が構築されている。2ユニットのホームであるが中央に位置する事務室で繋がっており、ユニット間を行き来する入居者の姿も見られた。ホーム職員は、入居者と常に穏やかに接しており、見守りによる支援に努めている。また、職員と入居者が一緒に食事の準備や後片付けをする様子も見られ、家庭的な雰囲気が感じられた。自治会には加入していないが、運営推進会議では区長に出席を依頼している他、ホーム等での行事の際には地域住民にも参加を呼びかける等、地域の一員としての自覚を持っているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	外部評価の結果については、定例会で話し合いを行う他、運営推進会議でも報告を行い、参加者から助言や意見を出してもらおう等、改善に向けて取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	今回の自己評価は、各ユニット毎に職員が取り組み、ユニット長がまとめたものを管理者がまとめあげ作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議は入居者家族、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員等の参加により、2ヶ月に1回開催しており、必要に応じて区長や駐在所の警察官にも参加を依頼している。会議では、ホーム側から運営に係る報告やホームでの課題等について協議を行い、積極的な意見交換の場となっており、出された意見等はサービスの向上に役立っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	毎月の家族の来所時等には、職員からの報告だけでなく積極的に意見交換ができるように努めている他、運営推進会議にも家族委員以外の入居者家族に参加を呼びかけており、家族からの意見や要望等を表しやすい環境づくりを行っている。また、重要事項説明書にはホームや法人の苦情受付窓口や責任者の他、第三者委員や市担当部署、第三者機関も明記されており、苦情を表しやすい環境を整えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	ホーム周辺は田畑や林であり、地域住民との交流は少ない状況にあるが、隣接する同法人事業所と合同で開催する納涼祭やホーム主催で行う芋煮会等の行事には、地域住民へも参加を呼びかけている他、近所の中学生のボランティアの受け入れを行うなど、地域との交流に努めている。自治会には加入していないが、区長が運営推進会議のメンバーとなっており、自治会情報の共有を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者一人ひとりが地域の方々と関わりながら、その生活リズムを大切にしたい穏やかな暮らしの中で幸せだと思える施設を目指す」をホームの独自理念としてつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月第2月曜日に開催する職員会議の場で理念について共有を図ると共に、ホーム内の台所にも理念を掲示しており、日々理念の確認に努め、実践に向け取り組んでいる。	○	入居者の重度化に伴い、地域との関わりが難しくなっていることから、ホームとして地域との関係性を踏まえながら、全職員で理念の見直しや今後の実践に向けた取り組みについての検討を重ねていくことに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺は田畑や林であり、地域住民との交流は少ない状況にあるが、隣接する同法人事業所と合同で開催する納涼祭やホーム主催で行う芋煮会等の行事には、地域住民へも参加を呼びかけている他、近所の中学生のボランティアの受け入れを行うなど、地域との交流に努めている。自治会には加入していないが、区長が運営推進会議のメンバーとなっており、自治会情報の共有を図っている。	○	運営推進会議に区長が参加していることから、自治会との連携は図られているが、今後は近隣住民との関係構築や自治会への加入等、さらに地域との交流を推進していくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果については、定例会で話し合いを行う他、運営推進会議でも報告を行い、参加者から助言や意見を出してもらおう等、改善に向けて取り組んでいる。今回の自己評価は、各ユニット毎に職員が取り組み、ユニット長がまとめたものを管理者がまとめあげ作成している。		

グループホーム安暮里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は入居者家族、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員等の参加により、2ヶ月に1回開催しており、必要に応じて区長や駐在所の警察官にも参加を依頼している。会議では、ホーム側から運営に係る報告やホームでの課題等について協議を行い、積極的な意見交換の場となっており、出された意見等はサービスの向上に役立っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員とは、運営推進会議や市の地域密着型サービス事業者連絡会議の参加時において情報交換を行っている他、管理者は制度や運営上の相談で市担当職員を訪問する等、行き来する機会を設け連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者のホームでの暮らしぶりや健康状態については、毎月、利用料の支払いに家族が来所した際等に報告をしている。また、毎月発行しているホーム広報誌「あぐり通信」でもホームの行事や入居者の生活状況等を掲載して家族への報告に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の家族の来所時等には、職員からの報告だけでなく積極的に意見交換ができるように努めている他、運営推進会議にも家族委員以外の入居者家族に参加を呼びかけており、家族からの意見や要望等を表しやすい環境づくりを行っている。また、重要事項説明書にはホームや法人の苦情受付窓口や責任者の他、第三者委員や市担当部署、第三者機関も明記されており、苦情を表しやすい環境を整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者及び管理者は、職員が入居者との馴染みの関係を保つことの大切さを認識しており、異動はできるかぎり行わないようにしている。開設以来、管理者の交代が1回と離職者が数名あったが、交代する旨や後任の職員を入居者や家族に対し説明や紹介を行い、入居者へ影響が生じないように取り組んでいる。		

グループホーム安暮里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の職場研修が毎月第3木曜日に開催されており、勤務の都合等で参加できない場合は伝達講習を行い、情報の共有に努めている。外部研修の参加については、勤務年数等を考慮し、認知症実践者研修や介護研修センターの介護研修等の研修会に順番で参加させ、認知症や介護に関する知識の取得に努めている。	○	法人の内部研修や外部研修に職員を参加させて人材の育成に努めているが、外部研修の参加については、職員の段階に応じて、多くの職員が計画的に受講できるように、研修体系の構築等の取り組みに期待したい。また、管理者は職員とのヒヤリングを重ね、職員一人ひとりの不満や不安の把握に努め、働きやすい環境作りにも取り組むことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入しており、管理者は他事業所の管理者と総会や研修会等の場を活用して情報交換を行う等、交流を図っている。また、管理者は昨年度から設置された市の地域密着型連絡協議会の代表も務めており、地域の同業者との情報交換を行っている他、今後は、各事業所の職員間での相互訪問や勉強会の開催等を計画しており、サービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、本人及び家族にホームの説明を行い、ホームでの暮らしぶり等について説明を行う他、本人及び家族にも日中ホームで過ごしてもらい、場の雰囲気や他の入居者及び職員とも顔なじみになるよう配慮しており、本人が納得し、安心して入居できるよう支援に努めている。また、入居間もない時期には家族のこまめな面会を依頼している他、本人に不安を与えないよう、職員は話しかけや目配りを重視した支援を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者にできること、あるいは職員と一緒にできることなどを把握しながら、一方的な支援にならないよう、入居者と職員がお互い支えあえる関係を作ることを大切にされた支援に努めている。職員は、日々入居者に感謝の心を伝えると共に、昔の行事食や風習などを教わりながら共に学んだり、支えあう関係を築いている。		

グループホーム安暮里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の入居者との関わりの中から思いや意向の把握に努め、支援に活かしている。また、意思表示の困難な入居者については、家族の協力を得つつ、本人のこれまでの生活歴や趣味趣向等を参考にして、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成に当たっては、家族の意向を確認したうえで、サービス担当者会議時において全職員で協議し作成している。勤務の都合で参加できない職員については、事前に「依頼書」により意見を記入したものを提出しており、職員すべての意見が反映されるようになっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3ヶ月毎を基本として行っているが、著しい心身状態の変化があった場合には、家族等とも相談しながら、その都度、状態に沿った見直しに努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている他、居宅療養管理指導も利用している。また、敷地内にある同法人のショートステイやデイサービス等の事業所から看護師が定期的にホームに訪問し、入居者の健康状態の確認や投薬及び糖尿病の入居者へのインシュリン注射等の支援を行っており、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援に努めている。		

グループホーム安暮里


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列法人でもある協力医療機関に家族の了解の下でかかりつけ医を変更してもらっている。協力医療機関への受診は職員が付添い、その他の医療機関への通院は家族に付添いを依頼している。また、ホームではバイタルチェックを重視しており、入居者の健康状態の把握と病気の早期発見に努めている他、協力医の往診が月2回あり、医師、看護師とも連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは「重度化した場合の対応及び看取りに関する指針」を作成しており、入居時等に家族にも説明を行っている。重度化した場合や看取りにあたっては、入居者の状態により協力医や家族と相談し、対処を決めている他、職員間でも話し合いを行い方針の共有が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として、入居者一人ひとりのその人らしさを尊重する支援を心がけており、入居者のプライドを傷つけないよう言葉かけや支援方法等を職員間で共有を図っている。個人情報の記録綴等は、事務室の書庫で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの基本的な一日の流れはあるが、特に日課は決めずに入居者一人ひとりのペースに沿った支援に努めている。共用スペースで職員や他の入居者と洗濯物たたみやおしぼり丸めの他、歌を歌ったりテレビを見たり、各々の居室で自由に過ごす等、入居者のペースに合わせた柔軟な支援を行っている。		

グループホーム安暮里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好み等に配慮しながらユニット毎に職員が献立を作成し、調理をしている。職員は入居者と食材の買出しに出かけている他、食事の準備や後片付けも一緒に行っている。入居者の重度化や高齢化に伴い、食事の介助が増えてきているため職員は入居者と一緒に食事をすることは難しくなりつつある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2、3回を目安に職員の支援や見守りにより入浴している。入浴時間は昼食後から夕方までの時間帯で行っており、入浴の順番等に配慮している他、拒否傾向が強い人には声かけやタイミングを見計らい、無理強いをせずに入浴できる様に支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は家族からの聞き取りや入居者との会話をとおして、入居者の趣味や特技の把握に努めている。雑巾縫いや刺し子、洗濯物たたみや民謡を歌ったり、自室のモップ掛けをするなど、入居者各々に役割や楽しみごとがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的に併設デイサービスのワゴン車を利用して5～6人ずつ、近隣の名所に出かけたり、天候の良い日には遠方へのドライブを行っている他、日常的には、ホーム周辺での散歩を行っている。入居者の重度化に伴い、個別の外出要請は少なくなってきた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置しており、鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。日中、玄関や居室の施錠はしておらず、職員の見守りと声かけにより、支援に取り組んでいる。		

グループホーム安暮里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者が防火管理者となっており、消防署の指導の下に年2回の消防訓練を実施している。緊急時対応マニュアルも作成しており職員間での共有も図れているが、夜間時に職員が1名となる事からの不安は感じている。なお、今年度中にスプリンクラーの設置を予定しており、更に入居者及び職員の安心、安全に配慮がなされている。	○	消防訓練の実施やスプリンクラー設置に向けた準備等、入居者の安全を第一にした防災に取り組まれているが、ホームの特性を踏まえ、地域住民からの協力体制の構築や地域との防災訓練の実施を検討する等、更なる災害対策の充実に期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はユニット毎に職員が入居者の栄養バランス等に気をつけながら作成しており、食事の残渣等から摂取量を把握している。水分の摂取量については摂取時に記録をしており、適切な摂取に努めている。また、主治医からカロリー制限が指示されている入居者については個別に対応するなど、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋建ての2ユニットのホームで、各ユニット内部は和風と洋風の異なる内装で仕上げられている。ユニット間は中央に位置する事務室で繋がっており機能的な造りとなっている。両ユニットの食堂及び居間は日当たりがよく採光は十分取り入れられていて周辺の田園風景が見渡せるように開放的な造りになっている他、共用部は床暖房が敷設されており、穏やか暖かさとなっている。居間等には入居者の手芸作品や慣れ親しんだ歌詞等が掲示され、入居者が居間のソファや小上がりの畳スペース等で思い思いに過ごす姿が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族に入居者の馴染みの品々を持込んでもらうように促しており、各居室にはベッドや箆笥等の家具類や思い出の写真、ぬいぐるみ等が持込まれており、各々の好み活かされるよう家族とも相談しながら居心地よく過ごせる居室づくりを支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。